



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第2号(2008年3月14日)

「スパークスのボトムアップ・リサーチ」

前回、スパークスはボトムアップ・リサーチによる日本株の投資を行なっていることをお伝えさせていただきましたが、今回はスパークスのボトムアップ・リサーチとはどのようなものか、そしてどこに競争力があるのかについてお話をさせていただきます。

スパークスの投資哲学は「マクロはミクロの集積である」という言葉に表されています。この言葉の根底にあるのは、国全体などの大きな経済の動き（マクロ経済）は、それを構成する個別の企業や個人の経済活動（ミクロ経済）の積み重ねで動いているということです。そして全体の大きな動きは様々な要素によって複雑に絡み合い、予測することは非常に困難ですが、個別の企業の状況は、深く丹念に調査することで、高い確度で予測することができるのではないかとということです。

すなわち経済や株価を予想する際に、個々の企業の業績等を重視して調査を行うアプローチ方法、この方法をボトムアップ・リサーチと呼びます。

スパークスは会社創業以来、このボトムアップ・リサーチに徹底的にこだわり、銘柄発掘を行なってまいりました。

具体的な調査方法としては、アナリスト、そして運用を担当するファンドマネージャー自らが各企業に直接訪問し、経営陣や実務担当者と面談し、現場の生きた情報をひとつひとつ収集します。その回数は年間4,500回以上に及びますが、特に経営陣と直接対話することを重視しています。なぜなら企業にとってマネジメントの動向が業績に与える影響は非常に大きく、経営陣に直接アプローチしないと企業の実態の把握ができないと認識しているためです。つまり「企業の本当の姿は現場にしかない」ということです。そして、そのリサーチ手法を会社全体として共有化することで、質の高いボトムアップ・リサーチの手法を確立してまいりました。

スパークスのボトムアップ・リサーチでは、主に「企業収益の質」「市場成長性」「経営戦略」の3つの観点から調査を行ないます。その上で調査対象の将来の収益等を予測し、企業の実態価値を評価します。さらに、一つの企業を複数のアナリストの目で検証し、議論を重ねることで、その企業が持つ真の実態価値を徹底的に追求します。そして、その価値が現在の株価に反映されていない場合、その間に存在する乖離（バリュウギャップ）を投資機会として捉えていきます。

ただし、そのバリュウギャップを見つけるだけでは十分ではありません。そのバリュウギャップを解消するきっかけが存在するかを見極めることが重要となります。調査活動を通じて、きっかけの存在を明確に把握したときに、私たちはリスクを恐れず、勇気と信念を持って投資を行ないます。この徹底したボトムアップ・リサーチの手法が長期的、安定的リターンを生む結果へつながっていくものと考えており、これこそがスパークスの競争力の源といえます。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『スパークス 日本株長期投資のすすめ』



スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第2号(2008年3月14日)

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。